



読売 2010.8.26

2008年3月の未明。寝室で眠っていた父(62)は突然、頭に激しい衝撃を受けて、目を覚ました。何が起きたのかも分からないまま暗闇で目を凝らすと、焦点の定まらない目をした次男のマスル(31)(仮名)が肩で息をしながら立っていた。無言のまま、自分の頭を狙って蹴りを入れてくる。部屋に鈍い音が何度も響いた。

「不審者が入ってくる」という妄想をもつマスルの仕事だった。

## ネットにあふれる向精神薬

5分ほどの暴行の後、マスルは何事もなかったように自室に戻っていった。病院に運ばれた父は、眼窩や鼻、右手の骨折で全治1か月と診断された。

向精神薬「リタリン」を飲んでから、息子は変わった。

◇

知って、一気に服用量が増えていく。

「売ります 20錠1万円」

「売ってほしい」。メールで依頼し、金を振り込めば数日後には小包が届く。「こんな

に簡単に手に入るのか」。父を襲った頃には1日約40錠を服用するようになっていた。

処方できる医師を登録制にするなど管理が厳しくなったが、今もネット上では高値で

売買されている。リタリンだけが取引されている。

ネット上にあふれる薬。供給源の一つは、正規ルートからの横流しとされる。

「こんな大量に注文できない」と言ってみだが、男に一喝されて終わった。

# 掲示板で購入 1日40錠服用

その後、開業医は麻薬及び向精神薬取締法違反に問われ、今年3月、

マスルが体のたるさを訴え、病院で抗うつ剤や睡眠導入剤などを処方されるようになったのは高校生の頃だ。処方薬の一つがリタリンだった。飲むと体中にエネルギーがみなぎるような気がした。

医師の処方は1日3錠。だが、インターネット上にリタリンの売買掲示板があるのを

リタリンについては07年、

◇

本来は処方せんが必要なはずの向精神薬だが、違法売買は後を絶たない。厚生労働省によると、08年、向精神薬の譲渡などで計50人が摘発され、6万1507錠が押収された。主な舞台はネット上の

掲示板だ。

◇

首都圏の開業医(53)は、カレンダーに「5」と書かれた日が近づくと憂うつな気分になった。

「5」は「エリミン5000錠」の意味。その日は、向精神薬エリミンを診察室の片隅に置かなければならない。受付の女性がいなくなる頃、

執行猶予付きの有罪判決が確定した。横流しは3年間分

30万錠にのぼった。

リタリン依存の末、父を襲ったマスルは今、病院で治療を受けている。肩の辺りまでリストカットの傷跡が残る腕をさすりながら、「なぜ、こんなことになったのか」と考えている。